

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月6日
札幌市立中の島小学校

1 本年度の重点目標

「子どもの言葉や姿をもとにした教育活動の推進」

2 本年度の経営方針

「ひとりひとり大切。あったか中の島」

～子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくり～

3 自己評価結果（A：達成できた B：ほぼ達成できた C：もう少し D：できていない）に対する
学校関係者評価（◎：たいへんよい ○：よい △：再考を要する）

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
つなげる・つながる	教科担任交換授業	A	交換授業を行うことで、教え方や子どもの関わり方など、たくさんさんの学びがあった。学年全体で子どもたちを見ることができ、様子を交流することができた。先生方は、学年みんなが自分たちの担当児童として見ることができていた。	A	◎
	学年の担任、学年で生徒指導	A	学級の問題があっても、迅速に学年内で相談や対策を話し合い、担任外や管理職にも情報共有し、相談を行ったことで、早期解決につなげることができた。	A	◎
	校務分掌での組織的運営	B	役割分担で決めた仕事だけではなく、協力し合って進めることができた。今後さらに、しっかりと見通しをもち、担当部の協働意識の向上と周囲の関わりを高めることを課題としたい。	B	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちを学年全体で見て、情報共有し、迅速に対処している様子が見える。 教師が固定され過ぎていないのは、子どもたちの生活にとってとてもよいことだと思います。 学級を越えて、学年全体で児童の様子を見守り、情報共有ができています。 児童にとって、担任の先生以外にも交流がもてるため安心感が強い。 			
げんきな子の育成	体力向上に向けて	A	今年度は、ラジオ体操や外遊びの励行など、全職員で指導を行ってきた。また、休み時間での体を動かす場所の提供など環境を整えることにも力を入れることができ、身体を動かすことへの意識をもたせることができた。	A	◎
	食に関する指導	A	給食での食指導や掲示物などで子どもに興味をもたせる工夫により、それぞれの栄養について理解が高まった。バランスのよい食事を行うよう、給食での意識が高まり、健康に気を付けて食事をしていく。	A	◎
	外遊びの推奨	A	外で遊べる機会を確保するために、グラウンドだけではなく、テラスの開放をするなど、外で遊べる環境を整えた。冬季は、スキー学習後のスキー山や降雪したギャラリーを開放することによって、外遊びをする子が増えた。今後も児童が楽しく活動できる環境やルールを整備していきたい。	A	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> 様々な工夫により、運動する環境を整え、健康的な生活を送るよう取り組んでいる。 スキー学習では、スキー山を活用し滑る機会を多く行い、藻岩山スキー場での学習に備えていけるとよい。 児童の休み時間に広い場所でリフレッシュすることは大切である。 テラスの開放など、外の空気に触れることが学校生活でのびのびとできる。 給食をたくさん食べて大きく成長してほしい。 			
よく考える子	タブレット活用の向上と情報モラル教育の推進	B	教職員間では、新しいアプリの使用方法や授業中での活用方法について研修することができた。授業中での活用も多く見られ、新たな学習形態を多くの学年で活用し、定着してきている。来年度は、情報モラル教育について、学年の段階に沿ったカリキュラムを学年ごとに見直し、年に数回行っていけるようにしていく。	A	◎
	効果的な活用による児童の変容	A	委員会活動や係活動など、様々な活動に取り入れ、連絡ツールとして活動の計画、調査、全校への呼びかけなどに活用する姿が見られた。また、アプリケーションを使い、意見交流や課題解決をする様子が、多くの学年で見られるようになってきた。	A	◎

学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット活用には、目覚ましいものがある。これからますます利用されると思われる。 ・インターネットで簡単に情報を得られる時代であるため、正しい知識を身に付け、利用してほしい。 			
思いやりのある子	個別の支援体制	A	インクルーシブ教育担当中心に不登校や学習支援などの対応を教職員で共通理解している。また、教室に入れない児童に、学習できる環境を整えることで、登校へのハードルが下がった。学習内容については、学級担任と連携を取り、その子に合った学習の仕方での学習できるようになった。今後も引き続き、情報を密に児童に寄り添ったサポートを心掛けていく。	A	◎
	特別支援学級との連携	B	特別支援学級と通常学級の交流において教科の学習だけでなく行事を一緒に行い、お互いに刺激を受けたり、助け合ったりして活動することができた。仲間意識の向上が見られた。今後は更に交流を充実させ、関わらせていきたい。	A	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・学校を休みがちな児童の関わりをしっかりと考え、サポートしている。 ・長期間の休みとならないよう、小学校以外の関係各所含め連携が必要である。 ・社会でも多様な考え方や、長所をもつ人がいることが当たり前と思える広い視野と心もゆとりを育む取組を期待します。 ・個別の支援体制は、サポートの様子が見られ、特別支援学級との交流も助け合っている様子が見られた。 			
やりぬく子	環境を活かした教育活動	A	町内会の方々と街路樹マサ花苗植え、HANALANDの活動を行うなど、地域の一員として参加することができた。今年度は、アイスクャンドルの運搬を4年生にさせていただき、地域の一員として参加することができ、総合的な学習の時間に位置付け、準備を行うことができた。	A	◎
	人材を活かした教育活動	A	今年度は、特別音楽授業「Everly」の方に来ていただき、音楽の授業をしていただいた。音楽を通して楽しく学ぶよい機会となった。また、各学年でゲストティーチャーを招き、活動の幅を広げることができた。	A	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の様々な行事で、地域の一員として参加・協力をさせていただき、感謝している。 ・町内会の方々と児童のつながりは大切だと思う。 ・一緒に花苗植えの事業から、地域の方と顔見知りになれる。 ・学校内だけでなく、コミュニティーの関係する人たちとの交流が多様な考えを培うと思うので、とてもよい取り組みと感じています。 ・学校には、それぞれが町内会区域にある。大いに町内会と交流を深めていただきたい。 			
信頼に込める教職員の養成	学ぶ意欲を培う指導の充実	A	交流を通じた活動や、話し合いなどを取り入れ、活発な授業実践を行うことができた。また、児童の実態を踏まえ、「思いをもち、実現する子」という目指す子ども像を意識しながら授業実践に当たることができた。引き続き、各部・各学年と連携を取り、工夫しながら教育活動を行っていく。	A	◎
	共通理解による指導	A	学級活動部を中心に全体で確認をしていながら、児童の指導を行うために共通理解をし、全職員で指導することができた。今後は、課題が出たときには、話し合いを通して解決し、共通理解を深め、指導を行ってきたい。	A	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体で連携を取り、共通理解の下、教育活動を行っている。 ・児童の学ぶ意欲について工夫し、全職員の共通理解ができていて素晴らしい。 ・学校全体で支えていく姿が見える。 			
信頼される学校	生徒指導に関わる問題への迅速・誠実な対応	A	月に一度、いじめ対策組織委員会を行い、学級の問題を迅速に共有し、解決に向けて共通理解が図られた。今後もいじめ対策組織委員会を通して、学級学年の問題を共有し、全職員で児童の見守りを行っていく。	A	◎
	安全確保の取組の充実	B	登下校の安全について、学校玄関前及び通学路での安全指導を全職員で行った。より実践的な避難訓練や適切な連絡アプリと文書による周知を継続し、危機意識の更なる向上と対応の実践化を図る。また、交通安全指導を徹底する。	B	◎
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> ・深刻な「いじめ」となる前に、学級の問題を共有できている。 ・言葉や態度で相手を傷付けることがないよう、家庭、教育現場で、児童への声かけ、関わりが必要。いじめ対策は大変なことと思うが、全職員で対応している様子がうかがえる。 ・登下校の安全についても対応されている。 ・何より子どもたちの安心と安全が一番重要だと考えます。心理的に安全な学校生活を送ることができるよう、PTAもアイデアを考えていきます。 ・特に登下校時、スクールゾーン道路中いっぱい歩いている児童が多いので、どちらか片方に寄って歩行するように指導願いたい。 			